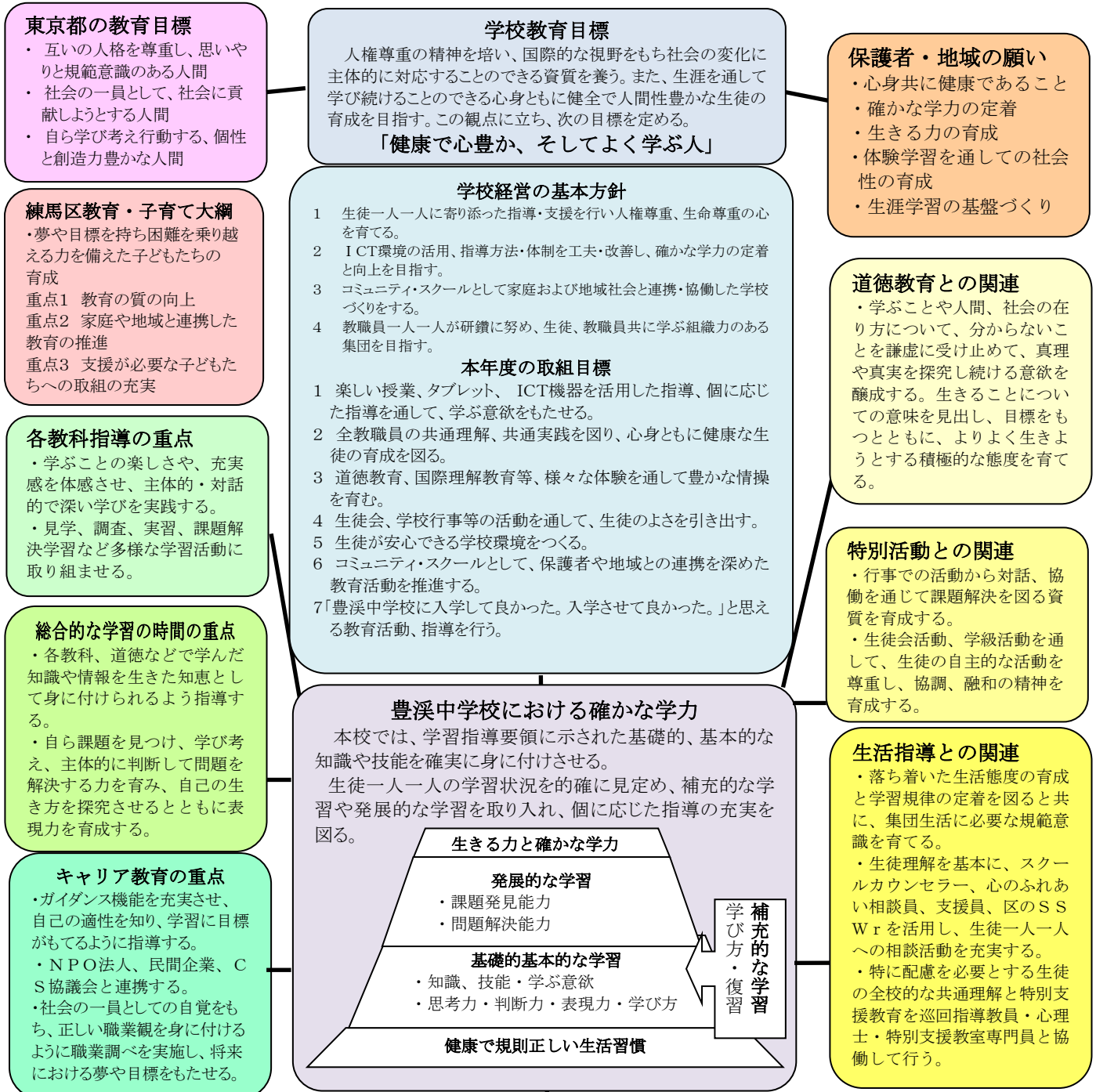


学力の向上を図るための全体計画



授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫と学びの支援	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ICT、タブレット端末を積極的に活用する。 実験や実習を多く取り入れた授業を展開し、学習意欲を高める。 英語・数学で習熟度を考慮した少人数指導を実施する。 全学年全校体制で夏季学力補充教室を開設する。 放課後の自主学习教室(K中ベシック)や11月以降に入試に向けた補習(K中ゼミ)を行う。 生涯にわたる能動的な学びに向け、他者との協働を取り入れた授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の精選に努め、道徳、総合的な学習の時間を計画的に実施する。 教科において授業時間を確保し、教科時数の確実な実施と未履修内容が生じないように十分に注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット等のICT活用した授業づくりに向けて授業研究を推進する。 課題改善カリキュラムの活用と見直しを通じて、指導課題の明確化と指導方法の改善に努める。 小中一貫教育研究グループの授業研究を通じて、9年間を見据えた指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の評価規準を教員間で公開し、観点別評価から評定に至る総括方法についての共通理解を図り、評価に対する客観性、信頼性を高める。 生徒、保護者による授業評価を行い、授業改善に資する。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談等を通して規則正しい生活習慣や家庭学習の定着を図る。 地域の活動にボランティアとして生徒を積極的に参加させる。 NPO法人や民間企業、CS協議会と連携したキャリア教育を推進する。(ライフプランニング等) 学校支援コーディネーターの活用 コミュニティ・スクールとしての取組